

漁海況年報

平成27年1月1日～12月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)

【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に近年の流型の経過を示した。また、図2には平成27年1～12月の各月前半、後半の代表的な黒潮流路を示した。

平成27年の黒潮流路は、1月前半はN型であったが、その後、小蛇行が複数東進したことでB型、C型、B型と推移し3月後半にC型となった。5月前半まではC型で推移したが、6月後半にはN型となった。7月後半に熊野灘に小蛇行が東進してW型(B型とD型が同時に存在する型)となり、8月後半にはC型となった。その後、10月後半まではC型、11月前半～12月前半はN型で推移した。12月前半に再び熊野灘に小蛇行が東進してB型となり、その後12月後半にC型となった。

小蛇行により流路が変化した2月後半、7月後半、12月前半には伊豆諸島北部海域から駿河湾、相模湾に暖水が波及した。

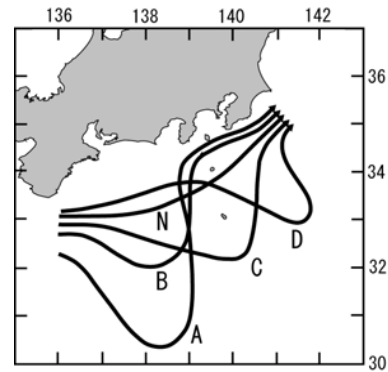


図1 黒潮流型の区分
(海上保安庁海洋情報部より)

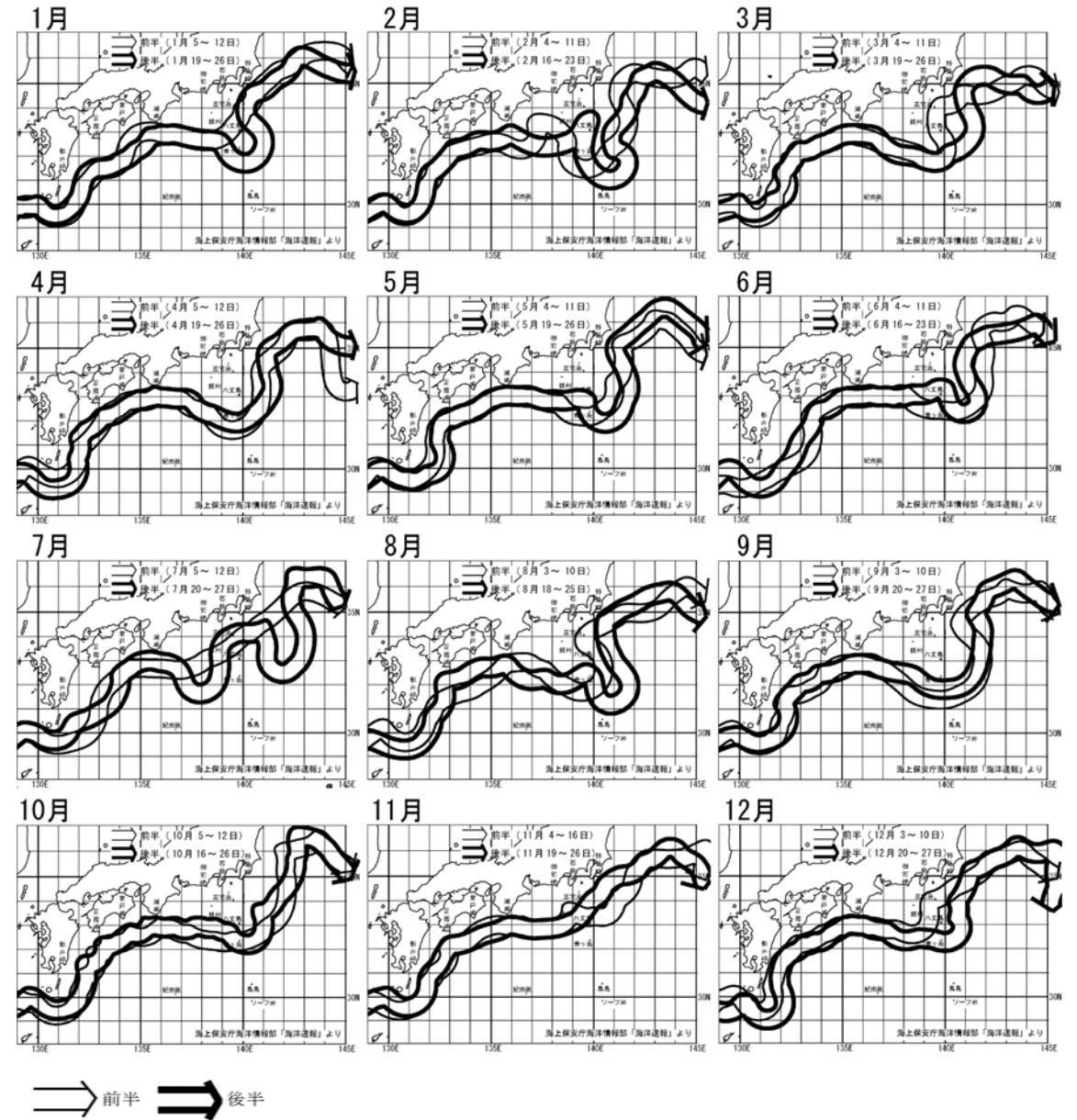


図2 黒潮流軸の変動(海上保安庁海洋情報部「海洋速報」より)

表1 黒潮流型一覧表 資料:海洋速報(海上保安庁)、関東・東海海況速報)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月												
12年	C	C	CW	W	W	WB	B	BC	CW	WB	C	C	C	C	C	C	C	C	C	CW	CW	CB	B	
13年	C	C	C	C	CD	C	C	C	WN	B	C	C	C	C	C	WB	BC	C	C	CD	DW	WD	DN	C
14年	N	N	N	N	N	N	N	N	NB	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
15年	N	N	N	N	N	N	D	NW	WN	B	BC	D	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
16年	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	NA	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
17年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	C	C	C	D	DN	N	N	N
18年	N	N	N	NB	C	CNC	CN	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	BN	C	NC	C	D
19年	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	C	C	N	N	B	C	C	C	C	C	W	N	C	C	C
20年	C	C	N	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C	C	CD	C	C	C	CD	C	C	C	C	C
21年	C	C	C	C	C	C	CW	WB	C	C	C	C	C	C	C	CW	WC	C	C	CN	NB	BN	BC	C
22年	D	DN	N	BC	N	NW	WB	C	CD	D	N	N	NB	B	BN	N	N	N	N	N	N	N	BC	N
23年	N	N	N	B	B	CW	C	DW	N	BC	C	DN	N	NB	NB	BN	N	B	C	DN	N	N	N	N
24年	N	N	N	B	C	C	CD	N	B	C	C	DN	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	BC	C
25年	C	ND	D	DN	N	N	N	NB	B	BC	C	C	C	W	W	B	C	C	C	C	C	C	C	C
26年	C	C	C	C	C	WB	C	BC	N	N	BC	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
27年	N	BC	C	W	WB	C	C	C	C	CD	DC	DN	N	NW	W	WC	C	C	C	C	C	N	N	NB

*静岡県水産技術研究所一部改変

【県下沿岸域】

図3に平成27年1～12月の旬別の沿岸水温の変化を示した。1月上、中旬は、全域で「やや低め」～「低め」であったが、1月下旬～5月下旬は、暖水の影響を受けた2月下旬と5月上旬を除いて、全域で「やや低め」～「やや高め」であった。6月上旬～7月中旬は、相模湾側で「やや低め」～「やや高め」、駿河湾東部では、「低め」、駿河湾西部では「平年並」～「低め」であった。7月下旬～8月下旬は暖水の影響により全域で「やや高め」～「高め」であった。9月上旬～12月中旬は、相模湾側で概ね「やや低め」～「やや高め」、駿河湾東部では、「平年並」～「低め」、駿河湾西部では「平年並」であった。12月中、下旬は、暖水の影響により全域で「高め」～「かなり高め」であった。

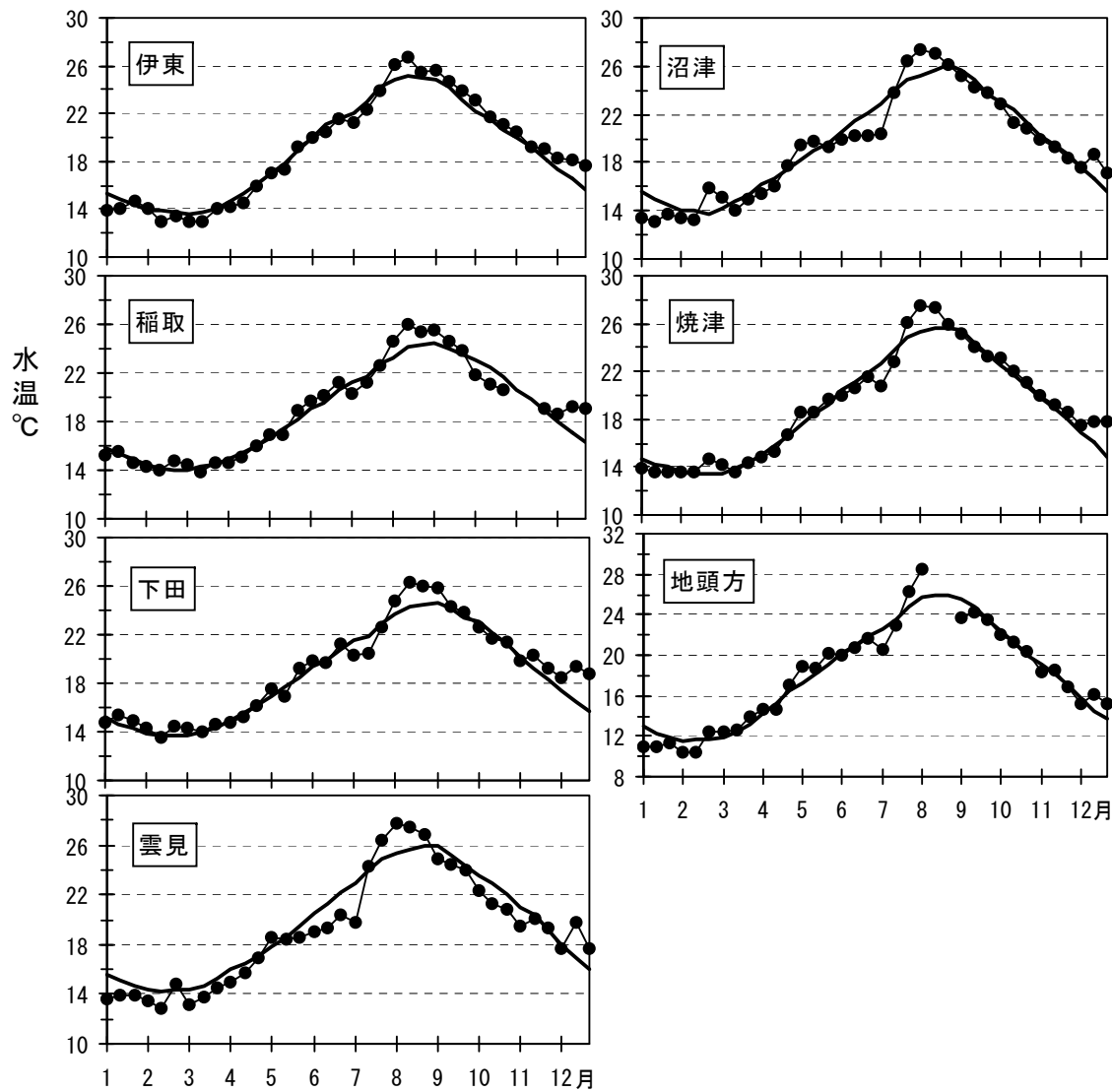


図3 平成27年1～12月の旬別沿岸水温の変化
(縦軸は水温、横軸は月を示す)

【サバたもすくい棒受網】

1 たもすくい (平成27年1～6月)

たもすくいの操業は、1月12日に三本でゴマサバを対象として始まった。マサバ主体の操業は1月29日に利島で始まり(1夜1人当たりの水揚量: 327kg、水温17.7℃)、2月1日には三本周辺海域にマサバ主体の漁場が形成され、今漁期のマサバ初漁日となった(1夜1人563kg、水温18.2℃)。3月下旬には一時的に銭洲にも漁場が形成されたが、三本周辺海域では4月下旬まで継続してマサバ漁場が形成され、今漁期の主漁場となった(1夜1人590～2,398kg)。5月中旬以降はマサバ漁場は形成されなくなり、三宅島周辺海域でゴマサバを対象に操業が行われた。

漁期を通じたCPUE(1夜1隻)は13.3トンで、豊漁だった1977～1981年漁期の平均には及ばないものの、近年では高水準であった2012年漁期(12.5トン)並であった。平成27年1～6月の主要7港への総水揚量は、マサバが2,111トンで前年(2,781トン)の76%、ゴマサバが400トンで前年(411トン)の97%であった。

※1 千葉県:千倉・富浦、神奈川県:三崎・長井、静岡県:伊東・沼津・小川の7港。

2 棒受網 (平成27年1～12月)

棒受網の操業は、1月13日に始まった。漁場は、漁期を通して主に三本、三宅島周辺に形成されたが、一時的に御蔵島や銭洲に形成されることもあった。

平成27年の静岡県主要4港※2における棒受網(一部たもすくいを含む、以下同じ。)の1夜1隻当たりのゴマサバ水揚量は16.4トンで、前年(17.2トン)、前々年(18.1トン)を下回った。今漁期の総水揚量は、マサバは1～5月を中心に1,819トンで前年(1,628トン)の112%、ゴマサバは6,060トンで前年(6,574トン)の92%であった。マサバ水揚量が前年を上回った理由としては、太平洋系群の資源量の増加による来遊量が増加したこと、ゴマサバ水揚量が前年を下回った理由としては、2～4月はマサバ主体の操業であったこと、8月の水揚量(85トン)が前年を大幅に下回ったことによる。

※2 伊東・静浦・沼津・小川の4港。

3 小川魚市場におけるサバ類単価

平成27年の小川魚市場における棒受網(一部たもすくいも含む)のサバ類月別単価は、マサバが83～409円/kg(1～6月)、ゴマサバが78～198円/kgであった。水揚の主体となったゴマサバは、年間を通じて70円/kgを上回り推移した。この理由として、水揚量の減少や、カツオ節加工の代替品としての需要増加等が影響したと考えられる。

表2 小川港(焼津市)における棒受網・たもすくいのサバ類月別単価 単位:円/kg

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年(2010年)	マサバ	35	249	260	126	231	253	204	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	71	61	79	63	63	66	57	42	36	39	37	39
平成23年(2011年)	マサバ	-	216	225	169	280	450	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	48	54	58	62	62	58	56	51	54	54	53	48
平成24年(2012年)	マサバ	271	138	263	172	103	-	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	52	46	51	51	46	52	62	59	59	56	58	59
平成25年(2013年)	マサバ	485	182	93	132	93	-	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	107	80	72	78	75	82	82	82	75	76	83	91
平成26年(2014年)	マサバ	193	301	229	215	187	165						
	ゴマサバ	101	170	110	105	92	85	91	91	94	73	83	116
平成27年(2015年)	マサバ	409	295	119	106	83	108	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	120	198	111	88	78	88	87	169	109	106	94	83

【サクラエビ船曳網】

春漁は3月29日夜～5月31日夜にかけて操業が行われた。出漁日数は17日、漁獲量は622トンで、漁場は主に富士川沖～三保沖、及び、大井川～相良沖に形成された（前年春漁の出漁日数は19日、漁獲量は719トン）。漁獲されたサクラエビの平均体長は、0歳エビが34.5mm（前年同期33.9mm）、1歳エビが41.4mm（前年同期39.8mm）の2群で構成され、0歳エビが主体であった。

秋漁は11月1日夜～12月20日夜に操業が行われた。出漁日数は14日、漁獲量は384トンで、漁場は主に焼津～相良沖に形成された（前年秋漁の出漁日数は12日、漁獲量は228トン）。漁獲されたサクラエビの平均体長は0歳エビが30.8mm（前年同期28.5mm）、1歳エビが39.9mm（前年同期39.0mm）の2群で構成され、0歳エビが主体であった。

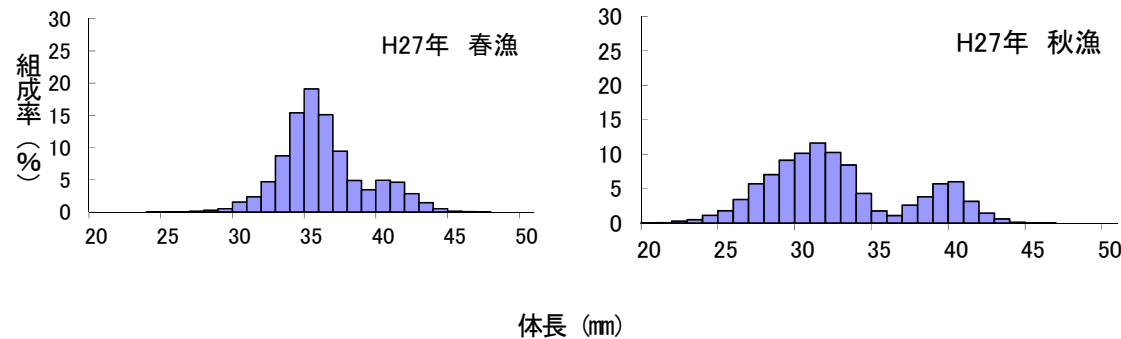


図4 平成27年春漁、秋漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

【竿釣近海カツオ】

・水揚量と魚価

平成27年の静岡県主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は1,261トンで、過去5か年平均（1,653トン）の76%であった。現行の統計（平成2年以降の集計）で最も少なかった前年（1,124トン）を上回るが、過去2番目に少ない水揚量となった。

魚価は359円/kgで前年（402円/kg）及び過去5か年平均（401円/kg）を下回った。

・漁況（漁場形成と魚体）

近海竿釣り船のQRY、御前崎港での市場調査による漁況はおおむね下記のとおり推移した。

- 1 月 中旬から近海竿釣り船が中南海域に出漁し、23日に初水揚げがあった。漁場は22～23° N、140～142° E付近で、尾叉長68cmモードの大・特大カツオを漁獲した。
- 2 月 21～23° N、139～143° Eの中南海域で、特大（尾叉長68cmモード）カツオを主体に極小（尾叉長40cmモード）カツオを漁獲した。
- 3 月 17～28° N、128～147° Eの中南海域で、特大（尾叉長71cmモード）カツオを主体に大（尾叉長58cmモード）や極小（尾叉長40cmモード）のカツオを漁獲した。下旬から沿岸竿釣り船が伊豆諸島海域に出漁を始め、少量の水揚げがあった。
- 4 月 月上旬～中旬は、近海竿釣り船が21～23° N、140～141° Eの中南海域で、大（尾叉長60cmモード）カツオを主体に特大（尾叉長68cmモード）や小（尾叉長45cmモード）カツオを漁獲した。下旬になって沿岸竿釣り船の操業が本格化し、近海竿釣り船とともに30～32° N、138

～140° Eの伊豆諸島海域で小～極小（尾叉長43cmモード）カツオを漁獲した。

- 5 月 31～34° N、138～140° Eの伊豆諸島海域で小銘柄（尾叉長44cmモード）カツオを主体に漁獲した。
- 6 月 近海竿釣り船の多くは房総沖の漁場へ移動し、沿岸竿釣り船が31～34° N、139～140° Eの青ヶ島やハロースを中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」（尾叉長44cmモード）を主体に漁獲した。
- 7 月 31～33° N、139～140° Eの青ヶ島やハロースを中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」（尾叉長45cmモード）を主体に漁獲した。
- 8 月 30～33° N、139～141° Eの黒瀬やハロースを中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」（尾叉長46cmモード）を主体に漁獲した。
- 9 月 31～33° N、139～140° Eのハロース、海徳場、黒瀬を中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」（尾叉長47cmモード）を主体に漁獲した。
- 10月 31～34° N、139～140° Eの松生場、ハロース、新黒瀬を中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」（尾叉長48-49cmモード）を主体に漁獲した。
- 11月 31° N、139° Eの松生場を中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」（尾叉長49cmモード）を主体に「極小」（尾叉長38cmモード）も漁獲した。
- 12月 11月末に松生場で操業した沿岸竿釣り船1隻が1日に水揚げして今期の終漁となった。銘柄「極小～中」（尾叉長34cm～55cm）を主体に幅広いサイズを漁獲した。

表3 平成27年近海・沿岸竿釣り船のカツオ水揚量等(県内主要5港)

年 月	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚 ／隻 (トン)	平均 単価 (円/kg)	主漁場と魚体 ()内は体長モード、単位はcm
27年 1月	47	2	23.4	434	中南・小笠原諸島周辺 (68)
2月	212	9	23.5	230	中南・小笠原諸島周辺 (68)
3月	153	7	21.8	284	中南・小笠原諸島周辺 (71)
4月	97	17	5.7	456	小笠原・伊豆諸島周辺 (43、60、68)
5月	174	32	5.4	436	伊豆諸島周辺 (44)
6月	154	35	4.4	372	青ヶ島、ハロース等 (44)
7月	155	31	5.0	262	青ヶ島、ハロース等 (45)
8月	117	33	3.6	368	黒瀬、ハロース (46)
9月	100	30	3.3	447	ハロース、海徳場、黒瀬等 (47)
10月	40	19	2.1	659	松生場、ハロース、新黒瀬等 (48-49)
11月	11	8	1.4	711	松生場 (38、49)
12月	1	1	0.9	643	松生場 (44)
27年 計	1,261	224	5.6	359	
26年 計	1,124	318	3.5	402	
5か年平均	1,653	362	4.6	401	平成22～26年の平均

【まき網】

1 マイワシ

平成27年における静浦漁港の総水揚量は0.3トンであった(前年0.6トン、平年16.5トン)。沼津港の総水揚量は、1,832.1トンで、前年(1,087.6トン)の168%、平年(2,032.1トン)の90%であった。月別では2月(678.9トン)、3月(710.6トン)、4月(194.2トン)と2~4月にまとまった水揚げがあった。

小川漁港の総水揚量は、780.1トンで、前年(485.9トン)の161%、平年(1,083.3トン)の72%であった。月別では2月(193.5トン)、3月(364.3トン)、4月(139.0トン)と2~4月にまとまった水揚げがあった。

伊東港の総水揚量は、419.0トンで、前年(613.4トン)の68%、平年(661.3トン)の63%であった。月別では、1月(116.3トン)と10月(124.1トン)にまとまった水揚げがあった。

2 カタクチイワシ

平成27年における静浦漁港の総水揚量は1.7トンであった(前年3.3トン、平年208.7トン)。

沼津港の総水揚量は67.5トンで、前年(101.1トン)の67%、平年(65.8トン)の103%であった。月別では5月(36.5トン)、6月(31.0トン)の水揚げのみであった。

伊東港の総水揚量は248.9トンで、前年(791.4トン)の31%、平年(656.9トン)の38%であった。月別では、1月(68.1トン)、2月(35.0トン)、11月(36.1トン)、12月(58.2トン)にまとまった水揚げがあった。

注) 平年：過去5か年(平成22~26)平均

1,037 kg)で平年(351 kg)の283%であった。5月、6月には“プール制操業”が一部漁場で実施された。7月は115 kg(駿河湾100 kg、遠州灘150 kg)に急減し、平年(508 kg)の23%となった。8月は122 kg(駿河湾55 kg、遠州灘156 kg)で平年(391 kg)の31%、9月は223 kg(駿河湾261 kg、遠州灘199 kg)で平年(426 kg)の52%と低調であった。その後、10月は360 kg(駿河湾327 kg、遠州灘383 kg)で平年(465 kg)の77%にまで回復し、11月は448 kg(駿河湾391 kg、遠州灘475 kg)で平年(300 kg)の149%であったが、12月は202 kg(駿河湾157 kg、遠州灘231 kg)で平年(244 kg)の83%、年が明けて1月は328 kg(駿河湾161 kg、遠州灘448 kg)で平年(362 kg)の91%であった。

○平均単価は、3月(598円/kg)、4月(602円/kg)、5月(451円/kg)は平年(531円/kg、507円/kg、372円/kg)を上回ったものの、6月(377円/kg)は平年(653円/kg)の58%と下落した。7月からは単価が平年を上回り、9月(942円/kg)は平年(606円/kg)の155%であった。その後11月(674円/kg)にかけて単価は下がったが、12月(946円/kg)、1月(685円/kg)と600円/kgを下回ることはなかった。

注) 平年：過去5か年(平成22~26)平均

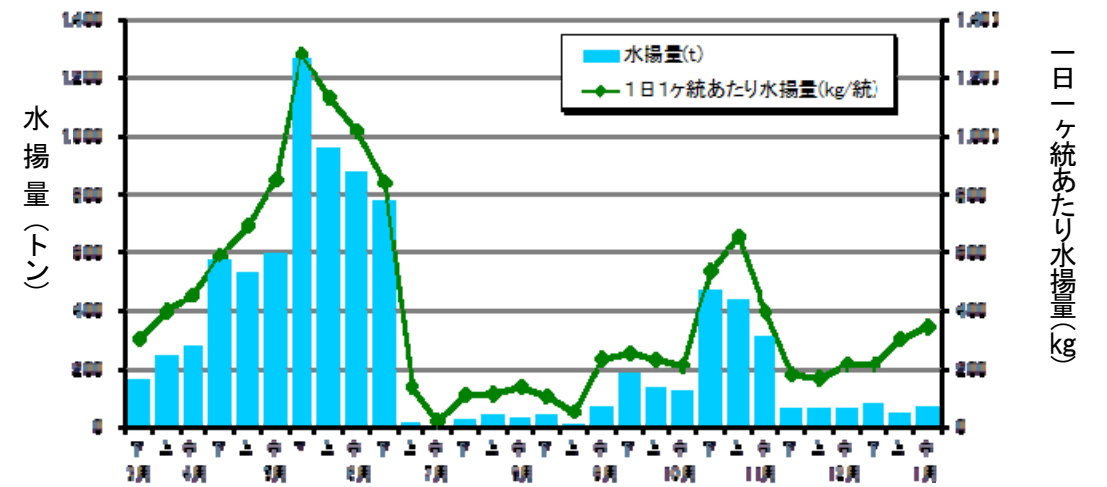


図5 平成27年主要6港旬別シラス水揚量と1日1ヶ統当たり水揚量の推移

【シラス船曳網】

○平成27年シラス漁は平成27年3月23日に始まった。平成27年3月~平成28年1月の主要6港(静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居)における総水揚量は8,549トンで、前年(8,040トン)の106%、平年(7,449トン)の115%であった。また、総水揚金額は4,605,551千円で、前年(4,282,104千円)の108%、平年(4,145,530千円)の111%であった。平均単価は539円/kgで、前年(532円/kg)の101%、平年(554円/kg)の97%であった。

○月別水揚量は、3月は161トンで平年(66トン)の244%、4月は1,096トンと平年(765トン)の143%、5月は2,402トンで平年(1,540トン)の156%、6月は2,603トンで平年(613トン)の425%と、3月~6月は平年を大幅に上回った。しかし、7月は31トンで平年(1,065トン)の3%、8月は106トンで平年(735トン)の14%、9月は265トンで平年(826トン)の32%と不漁になった。10月下旬に漁況が好転し、10月は734トンで平年(1,005トン)の73%にまで回復、11月は815トンで平年(546トン)の149%と上回り、12月は215トンで平年(222トン)の97%と平年並であった。年が明けて平成28年1月は119トンで平年(68トン)の175%と上回った。なお、過去の同月の月別水揚量と比べると6月、11月は1985年(昭和60年)以降の最多値、7月、8月、9月は1985年以降の最少値となるなど、月別水揚量の変動が極めて大きかった。

○27年漁期水揚量に占める春季(3月~6月)、夏季(7月~9月)、秋季(10月、11月)の割合をみると、春季は73%、秋季は18%であったが、夏季は5%にすぎなかった。

○1日1ヶ統当りの月別水揚量は、3月は303 kg(駿河湾164 kg、遠州灘379 kg)と平年(251 kg)の121%と好調に始まり、4月は501 kg(駿河湾479 kg、遠州灘511 kg)で平年(481 kg)の104%、5月は973 kg(駿河湾809 kg、遠州灘1,015 kg)で平年(690 kg)の141%、6月は992 kg(駿河湾901 kg、遠州灘

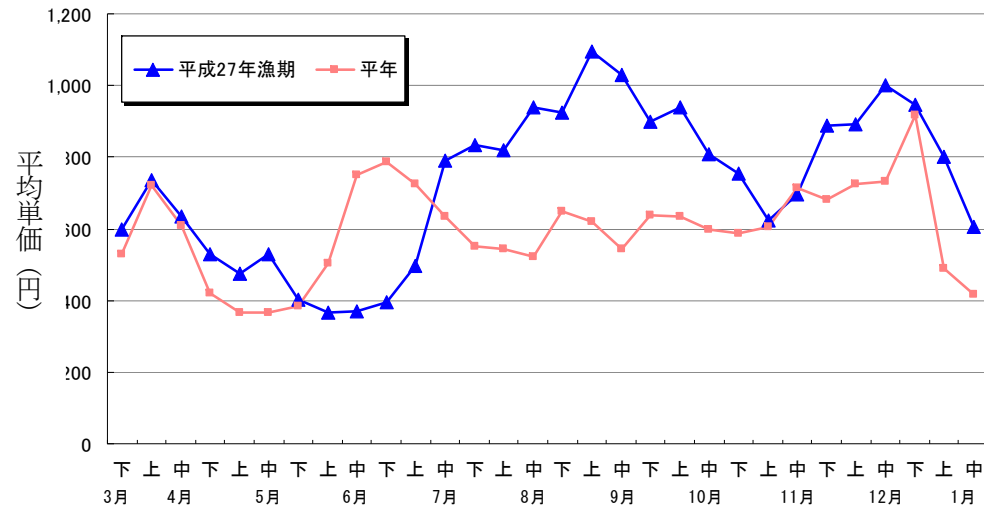


図6 平成27年主要6港旬別シラス単価の推移

[定置網]

平成27年の伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の漁獲量は4,237トンで、前年漁獲量5,323トンの0.8倍、平年漁獲量（昭和57年～平成25年平均）4,101トンの1.0倍であった。月別漁獲量では、3～4月に平年つたを大きく上回る漁獲がみられた（図7）。

また、漁場別の漁獲量では全ての漁場で前年を下回った（図8）。なお、漁獲の多かった漁場は、順に北川、川奈、古網漁場であった。

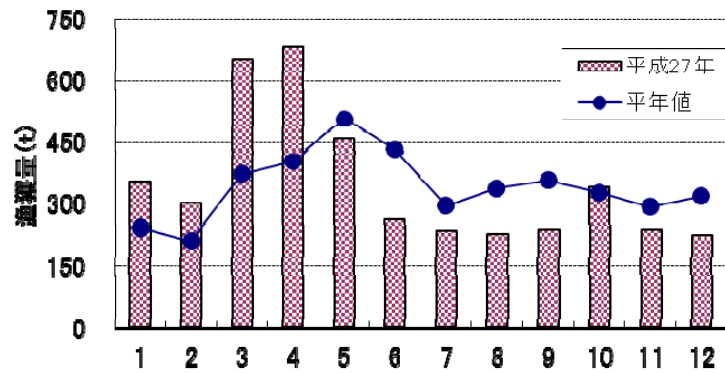


図7 月別漁獲量の推移

魚種別漁獲量上位10種を表4に示した。ブリ、アカカマス、マアジ、ヤマトカマスが前年を上回る漁獲量で、特にブリは平年の4.6倍と好調であった。また、マイワシ、マルソウダ、マアジを除く魚種の漁獲量は、平年を上回った。

さば類のうち、マサバの漁獲量は前年並みであったが、中・小型のゴマサバは低調であった。マイワシ、カタクチイワシは小型魚が主体、スルメイカは例年通り、1-2月及び12月に大型個体が多数漁獲された。ブリはぶり、わらさ銘柄主体で、いなだ、わかしについても、前年および平年を上回る好

調な漁獲であった。マアジの漁獲は低調で続いており、じんだ銘柄についても平年の数%と漁獲は極めて低調であった。表4以外では、マルアジが11月に13トン漁獲され、漁獲量は前年の1,099倍であった。

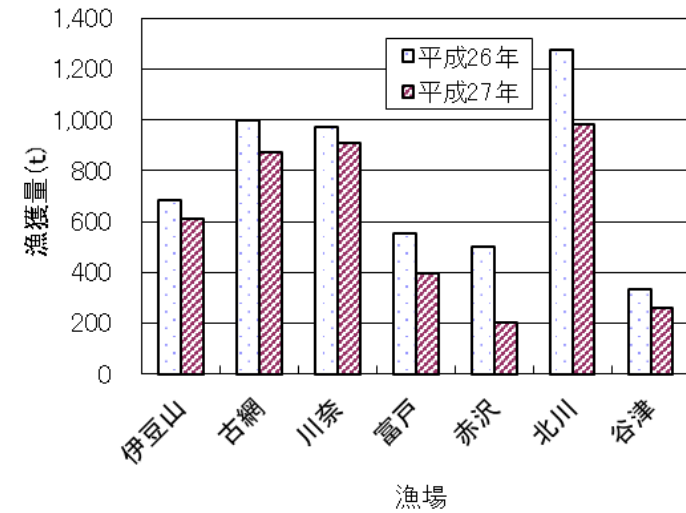


図8 漁場別漁獲量

表4 多獲された魚種の漁獲量

魚種	漁獲量（トン）	前年比	平年比
サバ類	1,066	0.8	1.1
ブリ	1,015	1.6	4.6
カタクチイワシ	454	0.6	1.2
スルメイカ	299	0.4	1.4
マイワシ	295	0.4	0.8
ヤマトカマス	176	1.1	2.5
マルソウダ	170	1.0	0.6
マアジ	128	1.2	0.2
シイラ	110	0.6	1.8
アカカマス	64	1.4	2.4

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と 関東・東海海況速報を見ることができます。

